

パルテノン多摩の博物館事業の情報をお伝えします。

歴史ミュージアム

もうすぐ開催!

次回のミニ企画展

多摩ニュータウン・坂物語

「多摩ニュータウンには坂が多い」といった不満の声がよく聞かれます。

でも、もともと多摩ニュータウンは、起伏ある多摩丘陵を造成して作られた街ですから、坂が多いのは当然のことです。では、ニュータウンが開発される前、人々は坂とどのように向き合っていたのでしょうか。

この展示では、多摩ニュータウン区域の地形の特徴や、傾斜地を利用した人々の暮らし、坂にまつわる伝承など、「多摩ニュータウンの坂」をさまざまな視点からとらえ、これからの坂との付き合い方を考えてみたいと思います。



ベートン/サカ 別当坂（昭和50年代）現在の多摩市落合5丁目付近/峰岸松三氏撮影

開発により 消えた坂



稲荷坂（昭和50年代）現在の多摩市唐木田付近/峰岸松三氏撮影



堂坂
多摩市連光寺付近

新たに生まれた坂



あたご一息坂
多摩市愛宕

展示構成

1 坂は生活をおびやかす?

坂が多く不便と嘆かれる多摩ニュータウン。そのイメージの現状を探ります。

2 多摩丘陵の地形

坂はどのようにしてできたのか、多摩丘陵の地形の特徴について、地図や模型などによって説明します。開発前と開発後の地形の変化もあわせて紹介します。

3 斜面を利用する

起伏のある多摩丘陵では、ニュータウン開発前、数少ない平地だけでなく、斜面を利用して畑を作り、無駄のない土地利用をしていました。農具も傾斜地にあわせて形を変えるなど、工夫を凝らしていました。このような傾斜地の土地利用について解き明かします。

4 坂にまつわる伝承

坂は「境」に由来する言葉です。つまり、上と下という異なる空間を区分する境界として意識されていたのです。そのため、坂は異世界への畏怖の対象となり、さまざまな伝承が生まれました。多摩ニュータウン近辺の坂にまつわる伝承を紹介します。

5 坂と生きる

全国にも坂の街はたくさんあります。坂と向き合い、坂と生きる工夫を探ります。

2006.11.30[木]→2007. 3.12[月]

10:00～18:00

入場無料

歴史ミュージアムミニ企画展コーナー

休館日 12/27[水]～2007/1/3[水]、1/23[火]～25[木]、
2/20[火]～22[木]

アート

美術展 予告 「電車にみる都市風景 1981-2006」

会 期：2006年11月18日(土)～12月25日(月) ※11/28・29は施設点検日のため休館
 開場時間：10:00～18:00(入場は17:30まで)
 入 場 料：300円、カタログ付入場券600円(先着300名様限定)
 ※高校生以下・65歳以上、障害者手帳をお持ちの方無料
 会 場：パルテノン多摩2F 特別展示室

主催：財団法人多摩市文化振興財団
 後援：多摩市、多摩市教育委員会
 協力：東京都写真美術館
 フォト・ギャラリー・インターナショナル
 協賛：株式会社カシマ、epSITE

5人の写真家の視点から、都市の日常風景を再発見！
 1981年から2006年にかけて撮影された東京近郊の沿線の街や駅周辺、車窓、ホーム、電車内の写真を約110点展示。

1. 沿線からみた街

山の手線29駅の沿線の街を撮影したシリーズです。工事中の東京駅や、大崎・五反田に立ち並ぶマンション、代々木や上野のリーゼントの学生や長いスカートの女学生など、写っている建物や人々の服装から、昭和50年代の東京の街の様子が覗えます。



石元泰博「山の手線・29」
 /1981-1989年 東京都写真美術館蔵

2. 駅周辺からみた街

1980～90年代の駅や駅周辺の写真を中心に展示します。天皇即位の日に赤坂見附駅に佇む監視員や、みなとみらいの動く歩道に乗る人々、建設中のゆりかもめの橋脚をみながら車で走る若者など、昭和から平成にかけて変化する都市の様子と人々の暮らしをみることが出来ます。



長野重一「東京好日」/1990年

3. 車窓からみた街

京葉線沿いの景色を車窓から撮影したシリーズです。ディズニーランドなどのレジャー施設や、ららぽーと・幕張メッセなどの商業地区、工業地帯など、近年の臨海地域の様子が車窓から一望できます。



小川照夫
 「廻眺窓景(けいちょうふうけい)」
 /2003-2005年

4. 車窓／ホームにみる人々

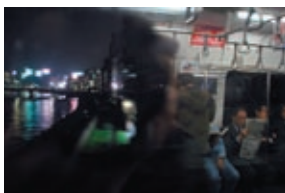
frameは車窓の外からを車内の様子を、cellは駅講内に設置してあるモニターから電車に乗降する人々の様子を撮影したものです。人と視線を交わさない車内の乗客や、電車から排出され、脇目もふらずに歩く人々などが、定点観測のように撮影されています。



原孝治「frame-0211-0302-」
 /2002-2003年

5. 車内にみる人々

窓ガラスに映る乗客と車窓の風景を同時に撮影したシリーズです。街のネオンや高層ビルを背景に映る帰宅途中のサラリーマンやOLの様子から、都市生活の一端が垣間見られます。



凌 学敏
 「THE ANOTHER WINDOW AND EITHER EYES」
 /2003年

【関連企画】ワークショップ「電車からみる街」

ギャラリートークを行った後、多摩モノレールに乗車して、駅周辺の人々や車窓からみた街を撮影します。撮影した写真は、後日に館内に展示されます。

- 日 時：12月2日(土) 10:00～12:45
- 講 師：小川照夫・原孝治
- 対 象：多摩市近隣の小学4年生～6年生、保護者同伴可
- 参加費：モノレール運賃
- 募集人数：20名(先着順)
- 申込み：パルテノン多摩予約センター 042-376-9999
 (10:00～12:00、13:00～17:00、水・日・祝休)と
 art@parthenon.or.jpにて受付中。詳細は郵送・FAXで連絡。

夏の参加体験事業「体験ひろば」の報告

身近な生き物を観察してみました。

多摩の生きもの探偵団 ～捜査リストで生きものさがし～

2006年8月11日と9月23日に多摩の生きもの探偵団が開催されました。子供たちが「捜査リスト」の課題に取り組みながら身近な生きものの意外な一面を観察して目を輝かせていたのが印象的でした。



何を見つけたのかな？



生きもの達人に認定します！

夏にはダンボールの巨大昆虫が出現しました。

夏休みワークショップ～ダンボールで巨大昆虫を作ろう！～



大きなダンボールを切るのに挑戦。



カラフルな昆虫のできあがり！

8月5日と12日におこなったワークショップでは、ダンボールで150cm大の巨大昆虫をつくりました。5～6人が一班になってダンボールをきり、組み立てて、カブトムシ、クワガタ、チョウを作りました。色を塗り、最後に背中に夏をテーマに折り紙で飾り付けしました。大きくて立派な昆虫ができました。

多摩のくらしを“体験”してみました。

多摩くらし体験クラブ

あしなが ①足半を作ろう！



8月13日は足半作りをしました。多摩に暮らす講師の先生たちの熱心で丁寧な指導のおかげで、参加した方々は上手に足半を作ることができました。

先生の手さばきはスゴイな～

②うどん作りに挑戦！



うどん作りをした8月20日は、驚きと感激で一杯の1日になりました。うどんができる工程を見て、子どもたち多くの関心を寄せていました。

皆で作ったうどんはおいしい！

サイエンスショップで“科学”してみました。

夏休みジュニア科学館

毎年恒例の夏休みジュニア科学館が今年はい場無料となり、2006年8月26日・27日に開催されました。2日間の入場者数が478人と過去最高を記録し、人気のブースには長蛇の列ができました。



会場は大勢の人で賑わいました。



電子顕微鏡でミクロの世界へ

現在のミニ企画展関連見学会

開催予告!

見ようよ!のりもの~見学会に参加しよう!~

多摩の「のりもの」について、もっと詳しくありませんか?現在開催中のミニ企画展「あつまれ!のりもの」にともなう見学会は、多摩に関連の深い交通施設を見学します。今回はバス編・モノレール編の2本立てです。皆さんのご参加お待ちしております!



その1 バス編

【日時】 11/19[日] 9:30~11:30
 【内容】 神奈川中央交通多摩営業所 (八王子市)とバス車両の見学
 【対象】 子ども、親子(未就学児は不可)
 【定員】 20名
 【参加費】 300円(当日支払)
 【集合】 京王相模原線 多摩境駅改札



その2 モノレール編

【日時】 11/21[火] 9:30~11:30
 【内容】 多摩都市モノレール株式会社本社 (立川市)とモノレール車両の見学
 【対象】 一般(未就学児は不可)
 【定員】 20名
 【参加費】 300円(当日支払)
 【集合】 多摩モノレール 高松駅改札



お申込み パルテノン多摩予約センター 042-376-9999 [10:00~12:00、13:00~17:00 日・水・祝休] とパルテノン多摩HPで。
 モノレール編は10/20から、バス編は10/28から受付。

ミニ企画展 **あつまれ!のりもの**

入場無料

歴史ミュージアムミニ企画展コーナー

2006.11.27[木]まで開催中

10:00~18:00 ※10/24[火]~25[水]は休館

乗り物の移り変わりをとおして、多摩の歴史を振り返ります。会場には、のりものカードや映像コーナーがあり、子どもも大人も楽しみながら学べます。

TOPICS

季節の展示「多摩の年中行事」

十三夜 展示中~11.3

十三夜(旧暦の9月13日)は「後の月」と呼ばれ、十五夜に次いで月が美しい日です。多摩には「片月見をしてはいけない」という言い伝えがあり、十五夜をしたら必ず十三夜にも月見団子や秋の実りを供えました。今回は、十三夜の供え物を再現して、旧暦の9月13日である11月3日まで展示しています。

皆さんも季節を味わってみませんか?



ボランティア報告

植物標本整理ボランティア

当館収蔵植物標本のデータを2006年度中にインターネットで公開していくための整理作業が植物友の会の有志によって進められています。

古文書解読ボランティア

夏から秋にかけて新たなメンバーが増え、現在は、3班17名程度(各班5~6名)で活動しています。現在解読しているのは、連光寺村名主の日記『富沢家日記』の弘化~嘉永年間(1844~1853)の部分。活気のある解読作業が続いています。

ご興味のある方は学芸担当までお問合せください。

マジックサウンドルームの人気展示

「オーケストラ・レジーナ」

Orchestral-regina
 レジーナ・ミュージックボックス社製

1900(明治33)年頃にアメリカで製造されたディスクオルゴールです。とても大きな、美しい音色を奏することができます。ディスクオルゴールはその名のとおり、楽譜代わりとなるディスク(円盤)を使います。このディスクを替えることでさまざまな曲を演奏することができます。なぜきれいな音がでるのか、そのなぞをご説明していますので、ぜひお越しください。

